

須崎市 図書館等複合施設整備に向けた基本計画 概要版(表)

1. これまでの経緯

現在の須崎市内図書館

- 蔵書冊数：39,538冊
- 面積：225㎡
- 課題：
 - ①人口に見合う規模になっていないこと。
 - ②利用者数やニーズに合う蔵書冊数や空間設備が成り立っていないこと。
 - ③動線が狭く、ベビーカーや車椅子で利用できないこと。
 - ④職員の事務スペースが確保できていないこと。
 - ⑤図書館サービスとしての企画を十分にできる場所がないこと。…など



平成30年度
「須崎流に
よかな図書館
を考える」
ワークショップ
開催

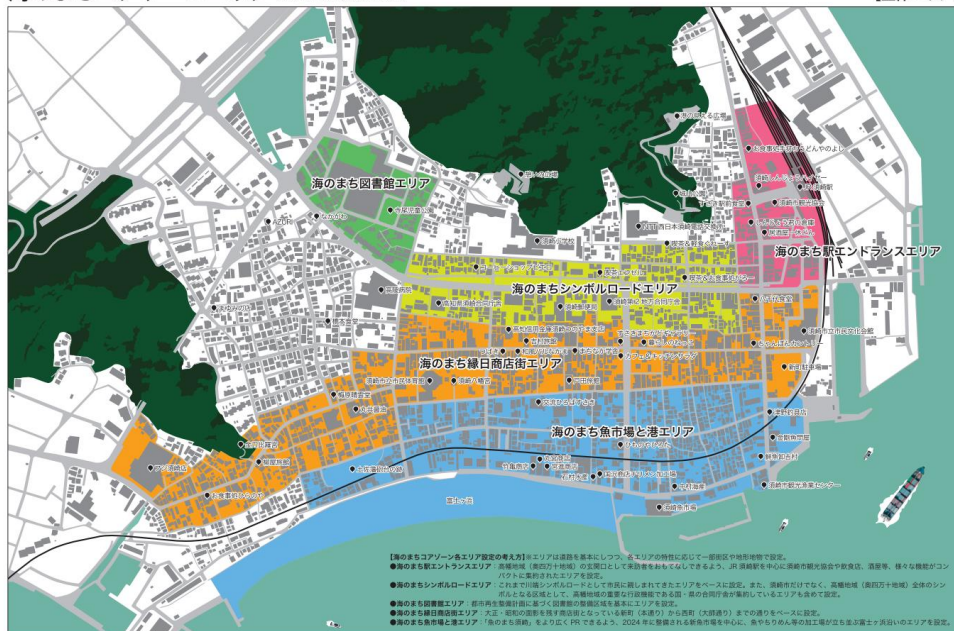
令和元年度3月
「須崎市図書館
等複合施設基本
構想及び建設構
想」策定

令和3年度より「海のまちプロジェクト」も発足しており、令和4年の野外体験施設、令和6年の新たな須崎魚市場に続き、令和8年に図書館等複合施設のオープンを目指しています。本計画は「海のまちプロジェクト」の趣旨も加味しながら計画しています。

海のまちコアゾーンエリア

umi no machi core zone area

【全体エリア】



【海のまちコアゾーン各エリア設定の考え方】各エリアは道路を基本にシフト、各エリアの特性に応じて一部街区や地形特徴で設定。
●海のまち駅エントランスエリア：駅周辺「駅前広場」の位置として集客をおこなう。JR須崎駅を中心に須崎駅前広場や飲食店、商店等、様々な機能がコンプレックスに集まるエリアを設定。
●海のまちシンボルロードエリア：これまで川崎シンボルロードとして市民に親しまれてきたエリアをベースに設定。また、須崎市だけでなく、須崎地域（奥四十十地域）全体のシンボルロードとして、須崎地域の歴史や文化を表現し、地域の活性化が図れるようなエリアを設定。
●海のまち図書館エリア：都市再生整備計画に基づく須崎市の歴史や文化を表現し、地域の活性化が図れるようなエリアを設定。
●海のまち魚市場と港エリア：「海のまち」の歴史や文化を表現し、地域の活性化が図れるようなエリアを設定。また、須崎市だけでなく、須崎地域（奥四十十地域）全体のシンボルロードとして、須崎地域の歴史や文化を表現し、地域の活性化が図れるようなエリアを設定。

須崎市のまちプロジェクト suwakishi umi no machi project

2. 新たな施設の基本コンセプト

■新たな図書館等複合施設整備に向けた基本コンセプト

これまでの経緯や検討結果を踏まえて、本施設は基本構想・建設構想の段階で「ゆたか跡地」に決まりました。

本施設整備の規模及び位置付けを整理したうえで、基本的なコンセプトを設定しました。主に、施設全体としての基本コンセプトと、主となる図書館機能に関する基本コンセプトと、複数機能を伴う複合施設としての基本コンセプトに分けて整理しています。

本だけでなくさまざまな情報に触れることができ、本をきっかけに交流も生まれる充実した図書館に！

各複合機能はただ合築しているだけでなく繋がることで相乗効果も生み出せて、一人一人に合った居場所をつくることもできる空間へ！

図書館基本コンセプト
情報と人、人と人の
出会いを生み出す図書館

施設全体コンセプト
情報・交流・テクノロジー
新たな出会いへ導くみんなの灯台

複合施設基本コンセプト
みんなの居場所をつなぐ
“縁側”のある施設

防災基本コンセプト
いのちを守るために学び、
行動できる場所

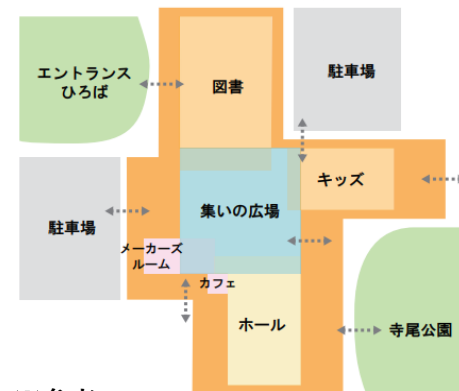
この施設自体を避難所にはできないものの、傍にある城山への避難を迅速に行える訓練やデザインの工夫による防災対策、いのちについて考えることができる学びの場、そしていざという時の身の守り方を日常の中で学べる場所に！

上記の施設全体コンセプトを掲げながら、それを支える3つのコンセプト（核となる図書館コンセプト、複合施設としてのコンセプト、防災の考え方に関するコンセプト）を踏まえて、複合施設としての各種機能や設計デザインの基本的な方針等を整理しています。

複合施設としては①図書館、②大会議室（ホール）、③「集いの広場」、④コンベンション、⑤クリエイティブ、⑥子育て支援、⑦カフェ、⑧屋外、の8つの機能を取り入れることとして整理しました。詳細は裏面の「3. 各種機能における基本計画」をご覧ください。

※参考：
施設を囲うように縁側（テラス）があるイメージ。

〔図提供：畝森・teco設計共同体〕



須崎市 図書館等複合施設整備に向けた基本計画 概要版(裏)

3. 各種機能における基本計画

8つの各種機能



情報と人、人と人の出会いを生み出す図書館



幅広い創造を掻き立てる、唯一無二のホール



各機能を拡張させたり交わらせる集いの広場



きちんと会もお気軽会も叶うコンベンション



テクノロジーが身近になるクリエイティブルーム



子育て世代“も”ではなく“が”行きたくなる場所へ



過ごし方を充実させてくれるやさしいカフェ



“日常”も“非日常”も好きになるみんなの庭

人口やニーズに合った十分な規模とスペースづくりを計画し、ユニバーサルデザインも徹底します！

大規模イベントや宴会も含めさまざまな活動や発表に合う多様かつ開かれたなホールを整備します！

各機能の真ん中にあることで、それぞれの機能を拡張したり交わらせられる交流の場とします！

シンポジウム、会議、軽い打合せ…用途に合わせて使い分けられるコンベンション機能とします！

最新のテクノロジーに気軽に触れることができるプログラミング教育等の場として設置します！

子育て世代がお子様と一緒に行きたくなるような空間設計やサービスを検討します！

軽飲食が可能なカフェを複合することで施設での過ごし方をさらに快適にします！

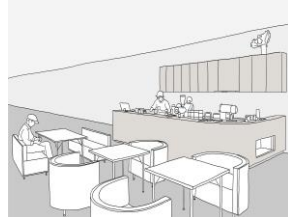
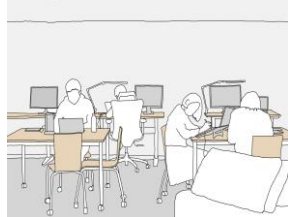
広場や寺尾公園は日常では癒しの場に、イベント時には屋外会場になるよう配慮して設計します！

5. 整備スケジュール



図書館の運営体制や開館時間についても、施設全体の運営を踏まえて、無駄なく効率的かつ効果的な連携のとれる運営体制を検討し、開館時間についても、利用者の利便性も考慮して検討していきます。

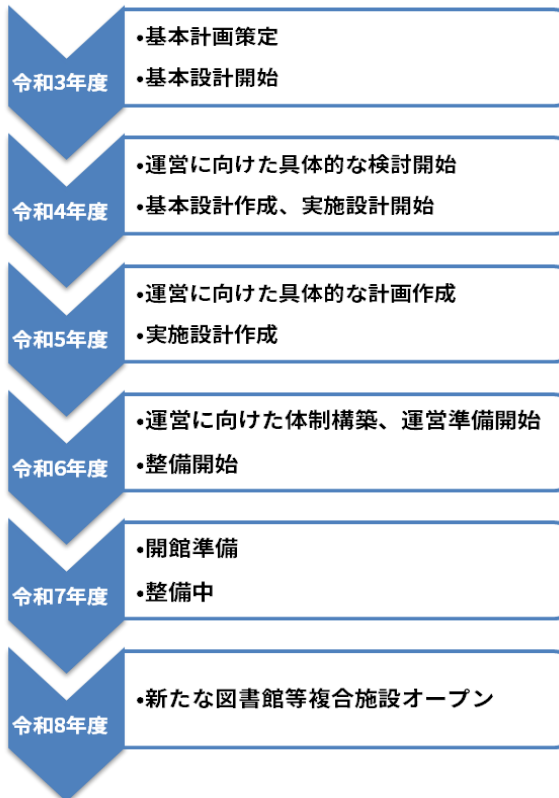
また、ICタグの導入やシステム関連などの設備面についても具体的に検討していきます。



[イメージ図提供：畝森・teco設計共同体]

検討段階に応じて、市民への情報発信及び市民からの情報収集、説明会を実施し、市民を巻き込んだプロジェクトの発足等へ繋げていきます。

子育て世代のニーズや時代に沿ったクリエイティブな取り組み、地域の回遊性を考慮した飲食機能やイベントの企画も検討していきます。



4. 核となる図書館機能の具体的な基本計画

図書館の運営方針①～⑩



①貸出業務やレファレンスサービスの充実のために、知識や技術を備えた人的サービスの提供を行います。



②ブックスタート事業や学校図書館との連携による読み聞かせや調べ学習も積極的に行います。



③十進分類に捉われず、利用者が興味を持って探しやすいようにテーマ別配架を行います。



④静かに過ごしたい人も満足できる場でありつつにぎやかで交流のあるあたたかみのある図書館にします。



⑤地域の行政資料や歴史・文化・人物に関する郷土資料などを収集し、デジタルアーカイブも行います。



⑥須崎市内の公民館等と連携した移動図書を継続し、図書館に訪れにくい人たちにサービスを提供します。



⑦子育てや医療・健康に関することなど、市民の課題解決のための資料収集と企画づくりを行います。



⑧館内にOPACを設置し、訪れた人たちが探している図書資料を簡単に探せるようにします。



⑨子どもたちが本と親しめるよう、キッズやティーン世代のための資料収集やスペースづくりをします。



⑩海外からの来訪者でも過ごしやすい施設になるよう洋書等も用意し、分かりやすいサインを設置します。



⑪電子図書システムを導入し、離れていても、より多くの図書資料に親しめるよう資料収集を行います。

図書館の資料収集方針①～⑩

- 蔵書構成全体に配慮し、十分な資料を網羅的に収集するとともに、各テーマ別にも充実した資料を収集します。
- 須崎市の歴史・文化・人物等が分かる郷土資料や「海のまち」として海や港のことが学べる資料を収集します。
- 学習や調べものに役立つ専門書や辞典などを充実させ、オンラインデータベースの提供もできるよう資料を収集します。
- 子育て世代に寄り添い、子育て支援の一環として地域課題の解決につながる資料を収集します。
- 高齢者の悩みや医療に関する課題解決支援、健康づくりなどの福祉サービスにつながる資料を収集します。
- 障がい者も図書サービスに親しめるよう、録音図書や点字図書などの資料を収集します。
- C D・DVDプレーヤーを館内貸出することで視聴が可能な、C DやDVDなどの視聴覚資料を収集します。
- ブラウジングコーナーは、約100種類の雑誌コーナーや新聞資料コーナーとして充実するよう資料を収集します。
- 図書館を訪れることが難しい利用者にも図書サービスを提供できるよう、今後さらに普及していくことが想定される電子図書を積極的に収集します。
- 「まんが王国・土佐」にふさわしい、マンガの充実した図書館を目指し「これも学習マンガだ！」セレクト作品や人気マンガを収集します。